

令和6年度 伏古小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23022

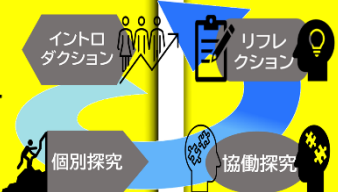
実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇児童の実態に合わせた授業作りに取り組んできたことにより、児童自身が自分の力で「課題を解決できそうだ。」という見通しをもち、自分の考えをもって学習に向かう姿が見られるようになった。(学校評価：児童アンケート「自分の考えをもつことができた。」後期7.6%の伸び) ◇校内研究の実践から、勉強が「楽しい。」と感じる児童の姿が見られるようになってきている。	◇自分の考えをもって学習に臨んでいても、他者に伝えたりする表現力に課題が見られる。 ◇札幌市の共通指標「意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書く。」「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。」といった項目からも、自分の考えを他者に伝えることに抵抗がある実態が明らかとなった。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題

◇札幌市の共通指標の「自分が必要とされていると感じる。」等の相互承認に関連する項目において、やや否定的な回答が見られるが、「人の役に立てうれしいと感じることがある。」「人の役に立つ人間になりたい。」という項目に対しては、全校の80%以上の児童が肯定的な回答をしている。運動会や学習発表会等の行事だけではなく、学校生活の様々な場面で他学年との交流を行い、相互評価の場を意図的に設定していることが、自己肯定感の高まりに関係していると考えられる。引き続き、相互評価の場の設定や、教師による価値付けを意図的に設定していく。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学ぶことに楽しさを感じ、友達と関わりながら、自ら学びに向かう力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇研究主題「学ぶことに楽しさを感じる子ども」の育成の実現 →子どもの実態に合わせた教材化の工夫。(子どもの「やってみたい。」が持続する単元構成・課題設定。) 子どもの「やってみたい。」「これならできそう。」といった学習への見通しをもたせる。 →自分の考えを他者と交流する場を設定し、他者の考えを聞いて、友達の考えのよさに気付いたり、自分の考えに広がりをもてるようにしていく。 →振り返りの場を設定することで、「学ぶ楽しさ」の経験を積み上げていく。 	◇よりよい学校にするための委員会活動の充実 →自分たちの意思を実現しようとしたり、問題を自分たちで解決しようとしていたりできるように、活動内容などを工夫する。 ◇学年・学級活動でのプロジェクトの企画、運営の推進 →自学年だけではなく、他学年との交流活動などの企画・運営に、進んで参加することを通して、自分たちの行動に責任をもち、「自分が大切にされている」と実感できる子の育成を図る。 ◇自分たちの生活を振り返る場の設定 →全校共通の振り返りカード（毎月1回実施）

〈本プログラムの実行に向けて〉

